

特集 宇和島百景

宇和島の印象的な場面が集まる「宇和島百景」。
現在600枚以上が認定されています。
今回は、今秋開催予定の「宇和島百景展」を記念し、
プロジェクトの経緯や込められた思いについて、
投稿者へのインタビューも交えながら
改めてご紹介します。

宇和島百景プロジェクト

豊かな自然、食の恵み、独自の伝統文化、歴史ある街並み、その中で過ごす何気ない日常……。宇和島は多くの魅力に溢れています。そんな宇和島の魅力を再発見できるような写真をインスタグラムで募集し、投稿された画像の中から選ばれたものを「宇和島百景」として認定するプロジェクトです。認定された画像はインスタグラムや市ホームページで紹介しています。また宇和島をPRする目的であれば、誰でも自由に使用することができます。現在はプロジェクト第2弾として、投稿の中から毎月3作品を認定し、最も魅力的な1枚を「広報うわじま」の最初の見開きに掲載しています。



▲市ホームページのフォトギャラリーから申請して利用できます（P26）



すべてはここから始まった

うわじまシティブランディング

本市では平成30年度から、まちの魅力を高めることで市民の皆さんから「住み続けたい」と、市外の人からは継続的に「関わりたい」と思ってもらえるまちにしていこう「シティブランディング」に取り組んでいます。その中で「うわじまブランド」のロゴマークとキャッチコピーを、市民の皆さんや、本市を応援してくれている市外の人たちと共に作りあげました。こちらでも宇和島をPRする目的であれば自由に使うことができます。

そのほかにもシティブランディングを進めるためにさまざまな取り組みを行う中で、ALL宇和島で魅力を発掘・発信していく取り組みとして「宇和島百景プロジェクト」がスタートしました。



▲うわじまブランドロゴマークとキャッチコピー



若い人に宇和島を魅せたい

赤松 正教さん



masa.a_photo

八幡浜市出身の赤松さんは、県外の大学を卒業後、就職で宇和島にやってきました。その後、結婚を機に西予市に移り住んでいます。宇和島の景色が好きで今でもよく撮影に来るそうです。

赤松さんがカメラを初めて買ったのは高校生の時で、本格的に撮影を始めたのは、大学生の時にバイクの免許を取り、いろいろな場所に行くようになってからだそうです。独学で撮影やレタッチの腕を磨き、SNSなどで作品を投稿しています。インスタグラムのアカウントは約4年前に開設し、宇和島百景はその時に知ったそうです。ちょうど広報うわじまの連動

企画が始まったタイミングで、以来ずっと投稿を続けていて、多くの写真が宇和島百景に認定されています。

撮影で心がけているのは、季節が感じられることだそうです。「花や緑が彩る自然、空や雲の雰囲気、花火やイルミネーションといったイベント、雪景色など、同じ場所でもいろんな顔がある」と話します。宇和島で好きな場所を尋ねると、九島だと答えてくれました。

夕日の撮影によく訪れるそうです。また宇和島の魅力は、海が近いのはもちろん、すぐ後ろに高い山もあって迫力があるところだと言います。歴史も好きで、宇和島城がまちの中心にたたずむ様も気に入っているそうです。

今後は、もっと若い人が宇和島に撮影に来てくれるようになればと期待します。「自分の写真がきっかけで写真を撮りに来る人が増えればうれしいし、若い人に興味を持ってもらえるような写真をどんどん投稿していきたい」と話してくれました。



写真映えるまちを目指して shi_hoさん



shi_ho.gram

本市出身で現在も市内に住んでいるshi_hoさん。以前はスマートフォンで写真を撮ってSNSに投稿していましたが、カメラが趣味の夫の影響もあり、3年前の誕生日に自分のカメラを購入しました。合わせてインスタグラムのアカウントも開設し、定期的に宇和島の風景を投稿しています。

撮影する写真は景色がメインで、加工はあまりせずに投稿しています。カメラを趣味にしたおかげで写真仲間がたくさんでき、いろいろなことを教えてもらっています。また運動不足解消にもなっていると笑顔を見せます。

宇和島の好きな場所を尋ねたところ、ボートレース大会の思い出や、のぞき岩など独特の雰囲気があることから、赤松だと答えてくれました。インスタグラムの投稿にも、だるま夕日などさまざまな赤松の風景が登場します。父親が城郭好きだったことから、宇和島城もよく撮影しています。また宇和島のいいところは食べ物がいまいところだと言います。市外の知人にかんきつを送って喜んでもらっているそうです。「景色をメインに撮影していたが、今後は食に関する写真も投稿できれば」と話します。

投稿を続けていると撮影場所などの問い合わせがあり、そういうときは惜しみなく教えてあげているそうです。「自分が撮った写真を気に入ってくれたり懐かしんでくれるととてもうれしい。写真を撮りに来てくれる人がもっと増えるように、みんなで宇和島を魅力的にしていければ」とこれから期待します。



宇和島百景展

2024. 11.2^(土)-4^(月) 9:00AM-5:00PM

【場所】道の駅みなとオアシスうわじま きさいや広場 【入場料】無料

BLUE PRINT

早朝に船乗りたちを包み込むひんやりとした青の世界。収穫を待つ農作物が陽を浴びはじめる青の世界。季節をまたぎながら街を染めゆく鮮やかな青の世界。新たな街の息吹をとらえ未来をのぞむ若き青の世界。

さまざまな「青」が重なりあい映し出される、これからの宇和島の青写真—— そのはじまりの風景を描く。



uwajima

宇和島の「青」が紡ぐ、新たな写真体験

宇和島百景展

「宇和島百景」や「宇和島市ブランドブック」で切り撮られた、宇和島の魅力を再発見できる写真の数々。そこに写る景色や人、そして写真そのものが、うわじまブランドを作っていく資産です。

これらの写真を用い、宇和島ならではの特別な時間や価値を体感してもらう企画展「宇和島百景展」を初開催します。写真を起点に、これまでにない切り口で宇和島の魅力を表現し、宇和島に息づく「日常の豊かさ」を感じてもらいます。

BLUE PRINT

「宇和島写真」で検索すると、7割近くが青い写真です。水産業や農業を中心に発展してきた宇和島では、さまざまな時間の空や海を日常的に目にします。また空が複雑な濃い青色になる時間帯はブルーアワーと呼ばれ、宇和島百景には、この時間帯に撮影されたものが多く含まれます。宇和島に住む人たちは、これらの豊かな「青」を、当たり前前に享受しています。

宇和島百景展では、コンセプトを「BLUE PRINT」とし、市内で撮影された多くの写真から「青い風景」を中心に十数点セレクトして屋外に展示するほか、フォトフレーム作りワークショップなども行います。BLUE PRINT（青写真）とは本来、建築などにおける設計図のことを意味しますが、「将来のビジョンを描く」という意味も併せ持っています。初開催となる本展では、これからの宇和島を創造していくための最初の風景を、まだ見ぬ宇和島の未来図として描きます。



みんなで創る
宇和島の未来

うわじまシティブランドディングでは、ALL宇和島での魅力発掘・発信に取り組んでいます。今回紹介した宇和島百景プロジェクトもその1つです。また、今年も第2期の市民ライターが誕生し、これから宇和島の魅力を紹介する記事を投稿してもらいます。

本市に関わるすべての人が、宇和島の未来の担い手です。「住みたくなる、帰りたいくなる、連れて行きたくなる」まちを目指して、みんなで宇和島の魅力を見つけ、発信していきましょう。



▲市民ライター養成講座の様子